

## 平成24年度第3回宮城県私立学校審議会

1 日 時 平成25年2月7日(木) 15:30～

2 会 場 宮城県自治会館2階 204会議室

### 3 出席者

(1) 出席委員 松良 千廣, 星 尚文, 伊藤 宣子, 佐藤 宏郎, 吉岡 弘宗,  
千葉 雅保, 三輪 哲, 山田 春樹, 徳永 恵子, 阿部 春美,  
菅原 通悦

(委員14人中11人出席)

(2) 欠席委員 青木 タマキ, 小野寺 靖子, 鈴木 一樹

### 4 議題

(1) 調査審議事項

①幼稚園の収容定員の変更について(お人形社第二幼稚園)

②専修学校の設置者の変更について(仙台YMCA国際ホテル専門学校)

(2) その他

### 5 会議の概要

事務局から審議会運営規程により会議が有効に成立している旨, 報告があった。

松良議長が審議会運営規程により議長となった。

議長は, 議事録署名人として星委員と千葉委員を指名した。

①幼稚園の収容定員の変更について(お人形社第二幼稚園)

事務局から資料により, 説明を行った。

(三輪委員)

変更の理由について質問があります。

今の話を伺いますと, 再整備事業を行うと住民が増加するということにつきましては, 納得いたしました。また, 地域住民が, 特に子育て世代が増加するということも分かりましたが, 今回の変更は保育室が減少するということで, これでは増やす理由であるように思います。

(事務局)

震災により校舎の一部解体がありましたので, 使用できる保育室の最大の定員にしたものです。

(大森課長)

下の園児数を見ていただければ分かるのですが、ここ5年での実態に合わせますと、もっと定員を減らすのが本来の話になりますが、保育室が4部屋ありますので、35人掛ける4部屋の140人の定員を維持したいというのが幼稚園側の考えとなります。

(三輪委員)

もっと減らすべきということではないです。

(吉岡委員)

私も今の文言の部分が引っかかりました。多分同じようにお考えになったのかなと思うのですが、定員を減らす理由がなぜ増えるような内容になるのかが不思議です。下の実態と異なった判断をしなければいけない部分として今回審議されるのであれば、今の定員の数字以上の数に値するような表現をしなければならないと思います。

しかし、この表現が良くないから却下するというものではありませんので、理由の内容をもう少し吟味されてはどうかと思います。

もう一点、お人形社第二幼稚園が災害での改築にあたり、災害復旧の補助を貰い、改築をしていると思うのですが、災害復旧は原状復旧が大前提になっているのではなかったでしょうか。なぜ震災から間もなく2年が経過するこの審議会の段階で申請され、既に保育室は減っているのでしょうか。

災害の復旧が出来なかったため、このような形状に変わったということなのですか。要するに240人という定員をキープする為の災害復旧ではなくて、土地柄そうはいかなかったということからの、今日の審議なのですか。災害復旧は原状回復ですよ。

(事務局)

確かに、本来であれば1年前にこの申請が上がってくるべきでした。

(吉岡委員)

災害復旧の補助を受けるにあたり、県で書類を見ている訳ですから、4学級にするという設定をあらかじめ県は認めていることにはなりませんか。少しづつづつが合わないように思います。

(松良議長)

原状回復の前に3学級であるという現実があるのではないのでしょうか。

(大森課長)

定員を現状に合わせていくということにつきましては、以前から同様の問題がありました。実態に合わせた定員に変えるということは、我々でも実態調査の際などに指導をしておりましたが、今回になってしまったという経緯はあります。

震災復旧に関しましては、基本的に原状復旧が原則ですが、実態に合わせて、原状復旧までが上限であるという考え方で、例えば何棟かあるうちの一部については解体で済ませ、一部については原状復旧するというやり方も認められておりますので、そのような対応であったということです。

(松良議長)

解体部分の補助はないのですか。

(大森課長)

解体につきましては、例えば仙台市でやっていただいた部分もあったかと思いますが、全体の復旧事業の中で、内容により対象とされた部分もあるかと思いますが。この幼稚園の場合、どのようであったかまでは手元に資料がないので即答はできません。

(菅原委員)

園児数との関係というのは、単なる見込みなのですか。もっと根拠についての説明が幼稚園側にあればお知らせいただけますか。高い見込みなのか、又は独自の係数を持つてのものなのかどちらでしょうか。

(事務局)

再整備計画につきましては確定事項ではありますが、園児の見込み数につきましては、幼稚園側としてはこの位の幼児が増加するであろうという予測の数字となります。

また、平面図上、斜線が2種類ありますが、右下がりの斜線部分が、震災により解体・撤去した部分となっており、ここにあった3室の保育室分が減少しております。

その他特に質疑等なく、本審議会として了承される。

## ②専修学校の設置者の変更について（仙台YMCA国際ホテル専門学校）

事務局から資料により、説明を行った。

(吉岡委員)

今回の審議には関係ないかと思いますが、4階の幼稚園部分の扱いはどうなっているのですか。

(事務局)

ここは今回新たにというよりは、元々学校法人に対して財団が貸していたスペースとなります。

(吉岡委員)

登記上、4階の部分に幼稚園の専用的な文言が入る訳ではないということですね。

幼稚園の建物は2階までであったかと思いましたが、先ほど4階に幼稚園の部分があるという説明がありましたので、そのような登記が可能なのかと思いましたが。

(松良会長)

4階は幼稚園で使用と記載してあります。

(事務局)

ここはあくまで幼稚園の側で補助的に用意した場所となっております。園舎で賄いきれない部分を遊戯室とは別に用意したということです。

(吉岡委員)

では、この幼稚園の設置基準上では遊戯室はこの平米数が入っているのですか。4

階の数字が入っているのではないですか。あるいは別のところに遊戯室があるのでしょうか。

(事務局)

遊戯室は1階部分にあります。

(吉岡委員)

今までの実態調査で、県はどのように捉えていたのでしょうか。

(事務局)

ここは、実態調査上算定に入っておりません。

(松良会長)

4階部分は基準上必要な部分とはなっていないということですね。

(吉岡委員)

以前に県に審査をして貰った際は、3階以上は使用してはいけないという指導がありましたので、それが大原則なのかと思い、伺いました。

また、実態調査の平米数に入っていないと言いながら、どのような扱いになっていたのか分かりませんが、今までそのように判断していましたと言われますと、分かりましたと言わざるを得ません。

(松良議長)

幼稚園ということではないということです。

(事務局)

今回の手続により、全ての部分が学校法人の自己所有ということになります。

(佐藤委員)

幼稚園の屋外運動場はどの部分になるのですか。

(事務局)

専門学校としましては、運動場等を設置する必要がありませんので、校舎と幼稚園舎の間の部分が幼稚園の運動場となります。

(佐藤委員)

この部分ですか。確か駐車場であったように思うのですが。

(事務局)

手前部分が駐車場になります。

(松良会長)

奥にあるのですか。

(事務局)

そうです。

その他特に質疑等なく、本審議会として了承される。

(事務局)

先程の件につきまして、補助金担当から御説明いたします。

(事務局)

当該幼稚園の災害復旧補助に撤去費には含まれているのかという御質問につきましては、復旧費に含まれております。

撤去した上で縮小した園舎を建てるという復旧補助をしております。

(松良会長)

復旧費用にも補助が含まれるということですか。

(事務局)

そうです。

(松良会長)

解体にも補助が使われたということですか。

(事務局)

解体だけであれば復旧にならず適用となりませんが、解体した上で建物を建てるのは補助対象となります。

(2) その他

事務局から当日資料について説明を行った。

(吉岡委員)

厚生労働省管轄の保育園の方では補助に関し、プール金が多い保育園に対し、その内容を明らかにしようということで、査察があったようです。

以前の審議会の議題でもプール金があるケースがありましたので、人件費に充てるようにと決まっているものではありませんが、県の運営費補助金の考え方はどうなのでしょう。プール金は作ってはいけないというものではないにしろ、ここまでという上限を設けているのでしょうか。

もう一つ、認定こども園に関することですが、先日、仙台市で説明会がありました。県のスタンスと同一であれば支障はないかと思いますが、今の段階で考えますと、認定子ども園は県の認可がなければ認定できない部分があります。

仙台市は平成27年度まで実施するのかどうかまで踏み込んだ説明があったのですが、認定こども園に関して、県の方も早い説明がないといけないのではないのでしょうか。

審議会案件ではないのかもしれませんが、認定子ども園はどこが審議することになるのでしょうか。

(大森課長)

先日、文科省の幼児教育課長から伺ったのですが、法律の話以上のことは、具体的な説明をするまでにはもう少し時間が欲しいということでした。

仙台市は子ども子育て会議という附属機関を新年度早々に立ち上げる想定で準備をされているのだと思います。県はもう少し時間がかかるということで、遅れた設置になるかと思われませんが、いずれ、市と県とで調整をする部分が出てくるものと思われま

また、新制度下では、保健福祉部が中心となる予定ですので、担当課と十分連携し、御説明できるような体制を取っていきたいと考えております。

前段のお話につきましては、厚労省からそのようなお話があったようですが、我々に文科省から幼稚園に関して運営費補助でそのような話は今のところありません。

(吉岡委員)

去年の暮れにテレビ報道等で、会計監査でプール金が余りにも多いので、人件費に回しなさいと指導が入ったとありましたが。

(大森課長)

恐らく、保育園の保育士の処遇が問題になっているようですので、それだけプール金があるのであれば人件費に回しなさいという流れがあるのではないかと思います。幼稚園とは若干状況が異なるのではないのでしょうか。

(吉岡委員)

幼稚園でも地域に拠りますが、かなり初任給が低いところもあります。園児が定員いっぱいには在籍しているところではプール金が多いなど、その辺のバランスをもう少し考えないといけないのではないのでしょうか。宮城県はまだ株式会社立の幼稚園がありませんが、そのような幼稚園が出来れば、ますますアンバランスになるように思えます。今後の設置者の考えがどうなるか分かりませんが、怖いと感じます。

(大森課長)

今後、我々の方でも意識していきたいと思います。

しかし、現時点では文科省から指導の動きはありません。また、運営費補助は経常費の2分の1を上限としておりますので、運営費補助をプール金とするのは難しいと思います。

(佐藤委員)

プール金というのはいわゆる内部留保である訳ですよ。

通常に運営していれば、とても貯まるはずのないお金がプール金としてあるのであれば、問題だと思います。

以前の実態調査では、教職員1人1人について本務採用なのかパートなのかを記載し、本来人件費として支払われるべき額がプール金に回されるのはどうかという指導がありました。

(吉岡委員)

認定こども園に関しまして、今回、仙台市は補助を出すので進めてくださいと言わんばかりの話になっています。今までも幼保一体化の場合は県が指導に入ったりしていましたが、新制度が平成27年度から開始されるにあたり、仙台市は平成26年度から実施するところはありますかという話を出してきています。

この場合、審議会案件となるのでしょうか。また、認定こども園になった場合の定員の見直しというのは審議会案件なのでしょうか。

(事務局)

幼稚園につきましては審議対象となります。

## 6 その他

平成25年度第1回私立学校審議会の開催について、事務局から説明を行った。  
以下、余白

上記の議事を証するため、ここに議事録を作成する。

議事録署名人

平成 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印

平成 年 月 日

氏名 \_\_\_\_\_ 印